

武蔵野市子どもの読書状況調査 結果概要

調査概要

■調査の目的

武蔵野市子ども読書活動推進計画の見直しを行うにあたり、市内の小・中学生の読書の現状を把握するとともに、学校、家庭、図書館等における読書環境等を把握することを目的として実施した。

■調査方法

市内全ての小・中学校を対象に、学校を通して配付・回収

■調査期間

平成30(2019)年10月

■調査対象と有効回答

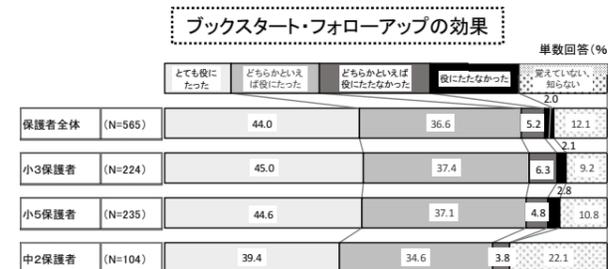
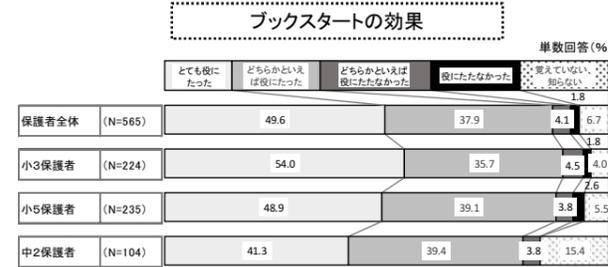
	計	小学3年生	小学5年生	中学2年生
児童生徒	894	348	367	179
保護者	782	310	324	148

乳幼児期の働きかけ

1 ブックスタートの効果

ブックスタート(注1)は87.5%が、ブックスタート・フォローアップ(注2)は80.6%が「役に立った」(「とても」「どちらかといえば」の合計)と回答し、乳幼児期の働きかけとして一定の役割を果たしている。

注1 ブックスタート:3~4ヶ月の乳児検診の際に絵本等を手渡し
注2 ブックスタート・フォローアップ:3歳児検診の際に絵本等を手渡し

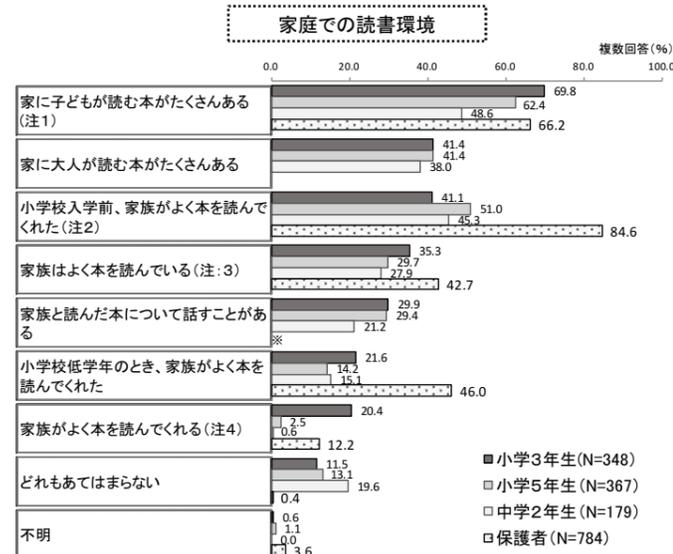


※「その頃は武蔵野市に住んでいなかった」「不明」を除いて集計

家庭での働きかけ

2 家庭での読書環境

8割の保護者は「幼児のときに読み聞かせをしていた」と考えているが、「小学校入学前、家族がよく本を読んできた」と答えた小学生は4~5割にとどまる等、親子で認識に違いが見られる。



注1 保護者の質問項目では「子どもが手によりやすいところに本を置いていた・置いている」
注2 保護者の質問項目では「幼児のときに読み聞かせをしていた」
注3 保護者の質問項目では「子どもの前で親が読書をしていた・している」
注4 小5・中2・保護者の質問項目では、「小学校中・高学年のとき、家族がよく本を読んできた」
※印は該当項目なし

3 子どもの読書に影響する家庭の読書環境

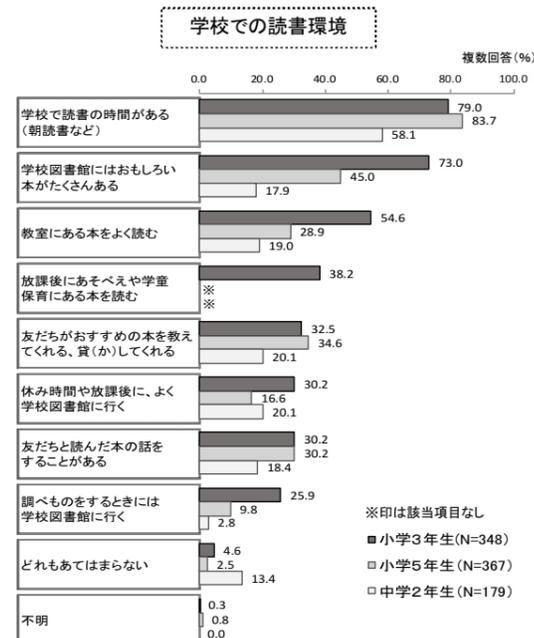
「家族はよく本を読んでいる」「家族と読んだ本について話すことがある」等、普段から本に親しむ家庭環境にある子どもは読書冊数が多い傾向がみられる。

環境	平均	1位	2位	3位	4位	5位	6位
小3(N=348)	17.1冊	22.3冊	21.2冊	20.9冊	19.8冊	18.9冊	18.6冊
小5(N=367)	9.2冊	11.3冊	11.2冊	10.7冊	10.0冊	9.8冊	9.4冊
中2(N=179)	3.5冊	5.3冊	5.2冊	3.9冊	3.8冊	3.7冊	3.6冊

学校での働きかけ

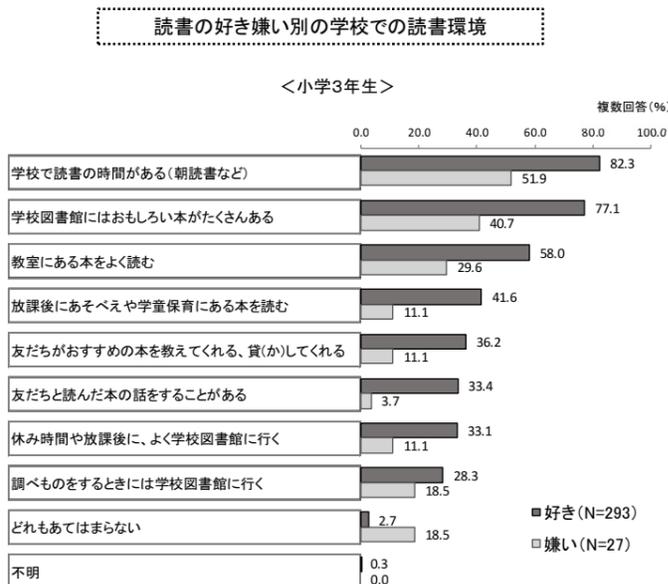
4 学校での読書環境

全ての年代で「学校で読書の時間がある(朝読書など)」が最も多い。学年が低いほど、学校図書館や教室にある本の利用が多くなっている。



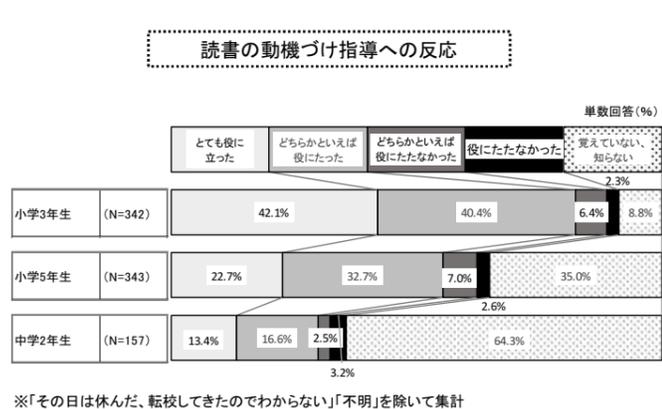
5 子どもの読書に影響する学校の読書環境

読書が『好き』な子は、学校図書館、教室、あそべえなどで積極的に本に関わっている。また「学校で読書の時間がある」「友だちがおすすめの本を教えてください、貸(か)してくれる」など、読書を勧める環境が充実しているのも『好き』な子に多い。



6 読書の動機付け指導への反応

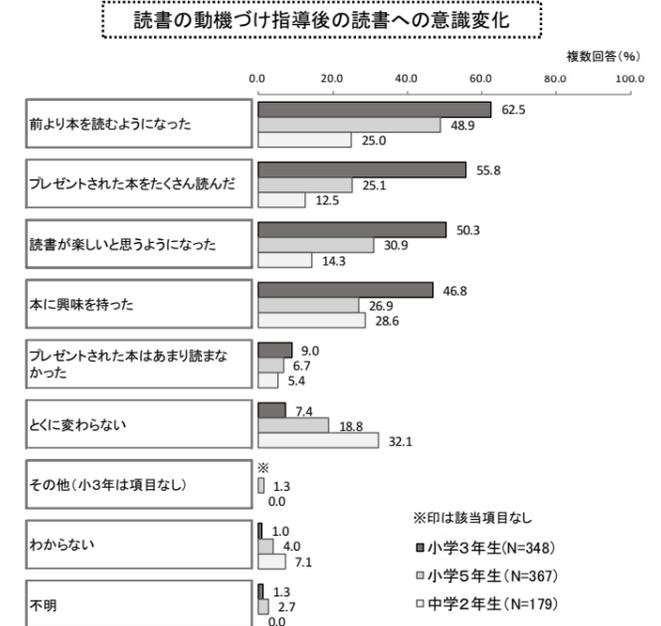
小学3年生では、「役に立った」(「とても」「どちらかといえば」の合計)が8割を超える。年齢が上がる程「覚えていない」比率が上がるが、それでも小学5年生では5割、中学2年生では3割が「役に立った」として記憶している。



※「その日は休んだ、転校してきたのでわからない」「不明」を除いて集計

7 読書の動機付け指導後の読書への意識変化

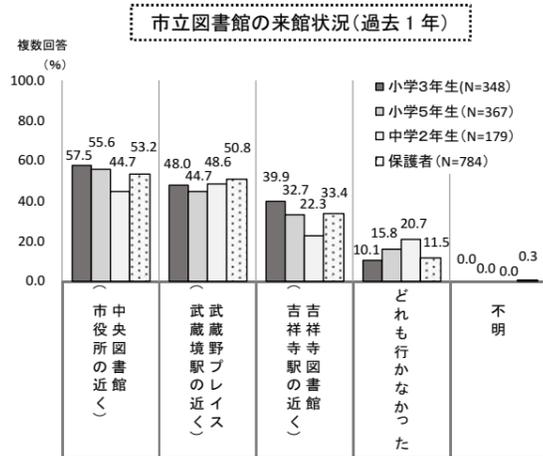
読書の動機づけ指導後、小学3年生で6割、小学5年生で5割近くが「前より本を読むようになった」と回答した。小学3年生では、指導後に「プレゼントされた本をたくさん読んだ」、「読書が楽しいと思うようになった」との回答も5割を超えている。



市立図書館の利用

8 市立図書館の来館状況（過去1年）

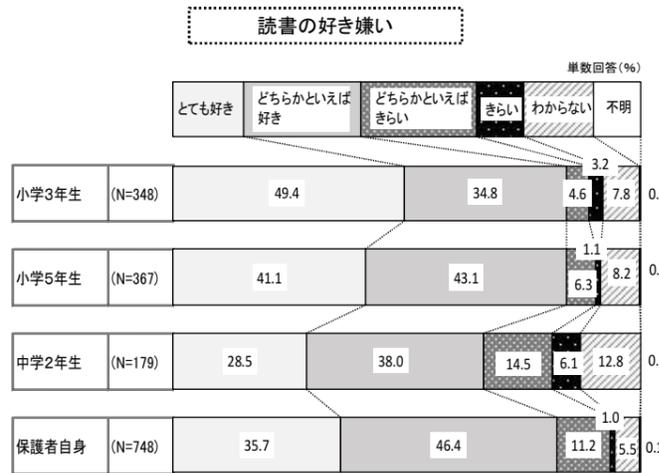
小学3年生・小学5年生・保護者のすべてで、80%～90%以上が、過去1年にいずれかの図書館を利用している。中学2年生では「武蔵野プレイス」が最もよく利用されている。



子どもたちの現状

9 読書の好き嫌い

読書が「好き」「とても」「どちらかといえば」の合計の割合は、小学3年生・小学5年生・保護者では8割を超えているが、中学2年生では6割と他と比べて少なくなっている。



10 本を好きになったきっかけ

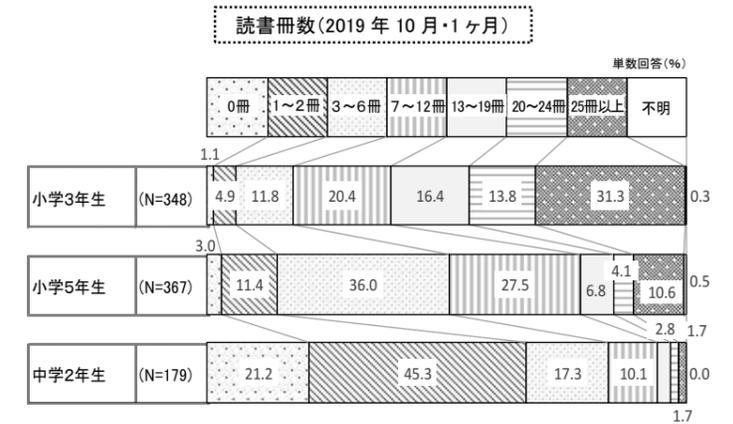
小5・中2ともに「おもしろい本・シリーズとの出会い」がきっかけになったと回答する割合が多い。「学校の読書の時間」や「家の中に本が置かれていたこと」など環境要因をきっかけとする回答もみられた。

	1位	2位	3位	4位	5位
小5男子(N=191)	74.3%	47.1%	46.1%	33.5%	30.4%
小5女子(N=175)	80.6%	60.0%	56.0%	55.4%	52.0%
中2男子(N=97)	61.9%	32.0%	26.8%	26.8%	24.7%
中2女子(N=82)	73.2%	39.0%	37.8%	35.4%	32.9%

年齢が上がるにつれての変化

11 読書冊数（2019年10月・1ヶ月）

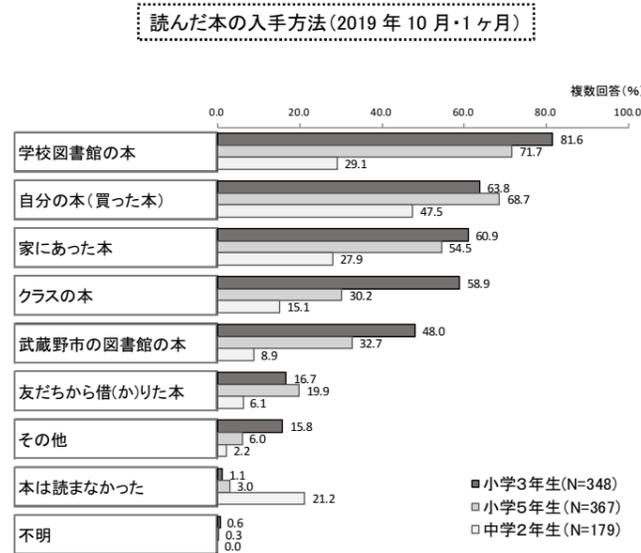
年齢が上がるほど読書冊数が減少する傾向にある。小学3年生では「25冊以上」、小学5年生では「3～6冊」が多く、一方で中学2年生では6割超が「1～2冊」もしくは「0冊」となっている。



年齢が上がるにつれての変化

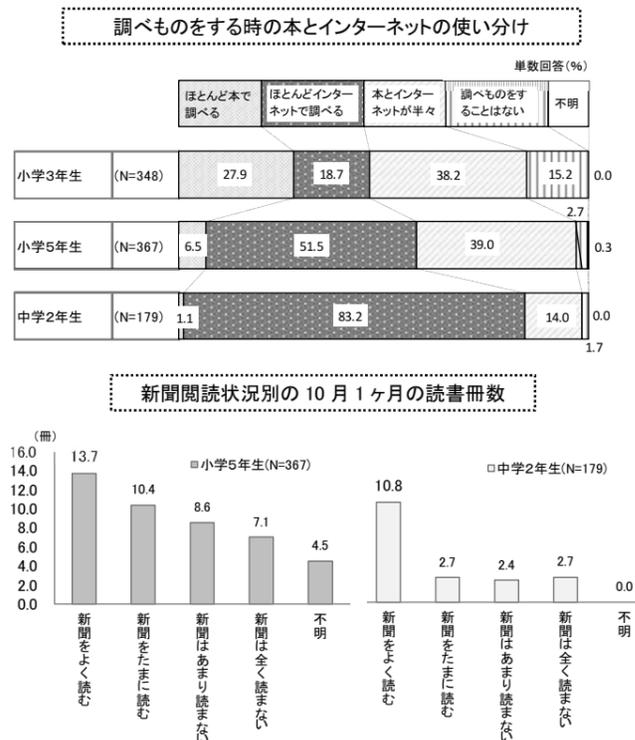
12 読んだ本の入手方法（2019年10月・1ヶ月）

小学3年生、小学5年生は「学校図書館の本」が最も多く、次いで「自分の本（買った本）」や「家にあった本」を読んでいる。中学2年生では「自分の本（買った本）」が最も多くなる。



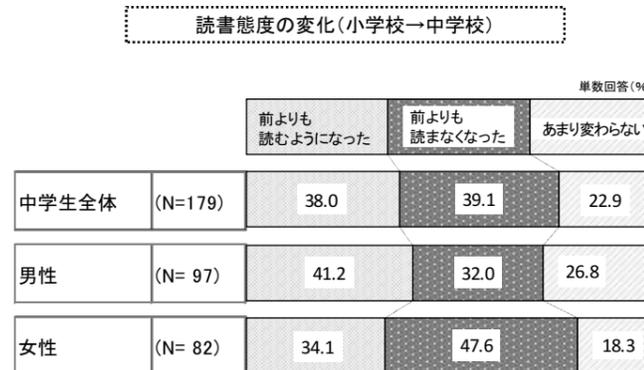
13 情報入手と読書

年齢が上がるほど、調べものをする時には本よりもインターネットを利用する割合が多くなっている。情報入手という点では、小学5年生、中学2年生のいずれも「新聞を読む」と回答した子どもの方が、読まない子よりも読書の平均冊数が多い傾向がみられた。



14 読書態度の変化（小学校→中学校）

中学生全体では「前よりも読まなくなった」と「前よりも読むようになった」は、いずれも4割弱で同程度である。男子は「読むようになった」方が、女子は「読まなくなった」方が、多くなっている。



15 読書態度変化の理由（小学校→中学校）

『前よりも読むようになった理由』は「好きな作家、シリーズ、ジャンルなどに出合った」が最多であった。一方、『前よりも読まなくなった理由』は「部活や習い事が忙しい」「SNSやスマホ、WEBサイトの方がおもしろい」「勉強が忙しい」が上位となっている。

